

# 学校法人八戸工業大学 中期計画

2026 年度～2030 年度

2026 年(令和 8 年)3 月  
評議員会諮問・理事会制定



## はじめに

学校法人八戸工業大学

理事長 武輪 俊彦

学校法人八戸工業大学は、建学の精神である「正己以格物」に基づき、教育・研究・地域貢献の機能を総合的に発展させることを目的として、八戸工業大学、八戸工業大学第一高等学校、八戸工業大学第二高等学校、八戸工業大学第二高等学校附属中学校及びさくら幼稚園を設置・運営しています。これら設置校の一体的な運営を通じ、地域社会の持続的発展に資する人材育成を推進するため、各設置校における目標とアクションプランを「学校法人八戸工業大学中期計画(2026年度～2030年度)」として策定しました。

我が国は、急速な人口減少と少子高齢化の進行に加え、若年層の大都市圏への集中による地域間格差の拡大という構造的課題に直面しています。とりわけ北東北地域においては、地域社会を支える人材の育成と定着が重要な課題となっており、地域に根差した教育機関としての本法人の役割がこれまで以上に問われています。

また、AIやIoT等の技術革新を背景とする第4次産業革命やSociety 5.0の進展、さらには経済・社会のグローバル化などの変化により、学校教育は、教育内容・手法の高度化と多様化、知識伝達にとどまらない課題解決力や創造性の育成、社会変化に柔軟に対応できる人材育成の基盤としての役割が求められています。

2026年度より始まる第2期中期計画期間においては、前中期計画の実施状況を検証し明らかとなった課題を踏まえつつ、これら外部環境の変化を「変革への好機」と捉え、安定的、持続的運営に資する財務基盤の構築、機能性・効率性向上を目指した組織運営とガバナンス体制の構築、教育力・研究力向上を目指した環境整備及び設置校の連携活動を活かした学園のブランド価値向上により、本法人の基本的使命である人材育成を核とした地域貢献、地域とともに発展する学校運営を推進していきます。

「学校法人八戸工業大学 中期計画(2026年度～2030年度)」は、次の飛躍に向けて歩みを進める行動計画であり、園児・生徒・学生のため、そして地域のために、教職員一丸となって本計画の遂行に取り組む所存です。

# 目 次

I. 建学の精神 .....	1
II. 設置する学校のミッション・ビジョン・中期計画	
1. 八戸工業大学 .....	2
2. 八戸工業大学第一高等学校.....	5
3. 八戸工業大学第二高等学校 八戸工業大学第二高等学校附属中学校.....	7
4. さくら幼稚園.....	11
III. 法人全体の取組み .....	12

## I. 建学の精神



せいきいかくぶつ  
正己以格物  
(己を正し以て物に格る)

この建学の精神は、人格、徳性の涵養及び知性の練磨を象徴的に表し、本法人の経営指針と基本的な教育方針となっています。この言葉は、儒教の根本精神を表した四書五経のひとつである「大学」に拠るもので、物の道理をよく見極め、広く知識を求め、社会における自己の役割が如何なるものかを深く認識し、高い倫理性をもって行動することの重要性を説いています。

昭和 31 年に現在の八戸工業大学第一高等学校の前身である八戸高等電波学校を設置して発足した本法人は、以来、この精神を不易の綱領として定め、社会の負託と時代の要請に応えることを要諦とし、創造的、個性的な自己思考能力を有する有為の人材を養成しています。

## II. 設置する学校のミッション・ビジョン・中期計画

## 1. 八戸工業大学

## (1) 教育理念

良き技術は、良き人格から生まれる

## (2) 大学の目標

- ▶ 「学生の教育を最優先し、学生の満足度を高め、  
総合的な成長を確実に達成する大学」
- ▶ 「教育と研究の成果をもって、北東北を主とした  
地域社会の発展に寄与し、地域とともにある地域のための大学」
- ▶ 「教職協働のもと、教職員の資質向上と組織運営の  
効率化により、小規模ながらも活気あふれる大学」

## (3) 基本方針

- ▶ 「学生の教育を最優先し、  
満足度(教育、研究、諸活動、就職)の向上と人間的な成長を達成させる」
- ▶ 「学生・教職員相互の信頼関係を定着させる」
- ▶ 「高校教育課程の多様化と  
女子生徒の志望動向に対応し得る魅力的な大学づくりを行う」
- ▶ 「地域社会の要請に応える教育と研究を実施し、  
地域に不可欠な存在となる(地域貢献型大学)」
- ▶ 「関係機関との連携を強化し成果を共有して、  
相互の利益向上が図れる体制づくりを行う」
- ▶ 「教職員の資質向上および大学組織の充実整備を図る」

## (4) 八戸工業大学 中長期目標・基本計画「HIT Grand Design 55」

建学の精神、教育理念に基づいて策定された八戸工業大学 中長期目標・基本計画「HIT Grand Design 55」に記載の中期目標の達成を目指し、それぞれの計画を遂行する。

## 【全体方針】

ア. 戦略立案体制の早期確立と稼働	カ. 教育の質保証システムの確立
イ. 対象とすべき地域の明確化	キ. 社会貢献・地域連携の推進
ウ. 入学者数の目標確定と入学者増への取組	ク. 入試募集体制の見直し
エ. 部局の特色・独自性の明確化	ケ. 組織改革等の推進
オ. 改組・改革の推進	コ. 自己点検・評価の推進、内部質保証の確立

## (5) 中期目標・アクションプラン

## 【全般】

- ① 教育研究体制の再編による大学価値の向上と学生確保及び学生満足度向上
  - ア. 大学価値の向上
  - イ. 各学部の特徴の明確化・強化とシナジー効果最大化
  - ウ. 意欲的で資質の高い学生の確保による定員充足率の向上
  - エ. 学生活動の活発化
  - オ. 大学のビジネスモデルの拡大
  - カ. 保護者・大学支援組織・同窓生との連携強化

## 【教育】

- ② 学生の総合的自立的成長の支援
  - ア. 教育システムの改善と充実
  - イ. 特色ある教育の導入と実施
  - ウ. 教職員の質的向上と授業方法の改善
- ③ 学生の満足度向上
  - ア. 教職協同による学生支援体制の強化
  - イ. 学生との定期的意見交換の機会設定
  - ウ. 学生関連の予算の確保と環境整備の推進
  - エ. キャリア形成支援
- ④ 大学院改革
  - ア. 大学院進学への意識涵養と大学院進学者数の増加
  - イ. 社会人向けの大学院(修士・博士)コース設置(早期修了を可能するための履修規則改正)
  - ウ. 留学生受入体制の整備と留学生向けの広報活動強化
  - エ. 国際交流の活性化
  - オ. 大学院改組の検討

## 【研究】

- ⑤ 研究力の強化と広報展開
  - ア. 社会連携・研究推進部の機能強化
  - イ. 教員個人の研究能力と実績の向上
  - ウ. チーム・プロジェクト研究の推進
  - エ. 地成密着型の研究推進
  - オ. 研究ブランディングの推進

## 【社会貢献と地域貢献】

- ⑥ 産学官金連携の推進
  - ア. 八戸市連携推進協議会の活動
  - イ. 共同研究促進のための融資に関する枠組み検討
  - ウ. 青森県における産業振興に関する動向調査
  - エ. 教育研究後援会のあり方見直しと連携の実質化
- ⑦ 地域社会との連携・協力の推進
  - ア. 各種委員会等への協力と存在感向上
  - イ. 包括協定締結団体等との定期的意見交換会開催

## 【国際交流の促進】

- ⑧ 協定校の開拓
- ⑨ 協定校との積極的交流
- ⑩ 学生の海外派遣支援制度の検討と派遣の実施

## 【入試制度の改善と募集活動の強化】

- ⑪ 大学入学者選抜改革への対応と入学者選抜方法の改善
  - ア. 3学部化への対応
  - イ. 年内入試シフトへの対応
- ⑫ 高大接続・入学前教育等の改善
  - ア. 接続用プログラム(先行履修プログラム)の拡充検討と実施
  - イ. 入学前教育の改善による入学予定者の逸失防止と学修意欲の維持高揚
- ⑬ 戦略的募集活動
  - ア. 強化部等担当チーム編成と効果的な高校訪問によるスカウティング強化
  - イ. 課外活動等学生生活動の広報コンテンツ整備・更新と広報展開
  - ウ. グループ校(工大一高, 工大二高)向け入試説明会(生徒向け, 保護者向け, 教員向け)の実施
  - エ. 学部生・大学院生の高校への派遣事業の検討と実施
- ⑭ その他
  - ア. 出願・納入方法の改善

## 【運営体制】

- ⑮ 組織・業務・人事
  - ア. 研究力強化・研究プランディング戦略・IR・広報の各部門の設置・整備
  - イ. 効果的な教員人事計画策定と組織力向上
  - ウ. 教職員評価システムの改善
  - エ. 業務全般の見直しと業務改善・効率化(電子化・AI活用)の実施
  - オ. 職員配置の適正化
  - カ. SD の促進
  - キ. 技術系職員の組織化検討
- ⑯ 施設・財務・外部資金
  - ア. 施設・設備整備計画の策定
  - イ. 財務体制の改善及び大学運営資金獲得戦略の策定
- ⑰ 安全の確保と管理体制の整備
  - ア. 大学構成員への啓蒙
  - イ. 教職員を含めた安否確認体制の構築
  - ウ. 緊急時対応マニュアルの定期的見直しと緊急連絡網の整備
  - エ. 避難用装置, 災害時携行品の定期的点検
  - オ. 帰宅困難時対応品の整備検討

## 【内部質保証の組織体制と自己点検・自己評価】

- ⑱ 全学の組織・責任体制の継続的見直し
- ⑲ 自己点検・評価活動推進による組織の強靱化推進
- ⑳ 自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有
  - ア. IR などを活用した調査・データ分析
  - イ. PDCA 機能による継続的改善活動

## 2. 八戸工業大学第一高等学校

## (1) スクール・ミッション

建学の精神のもと

物の道理をよく見極め

広く知識を求め

社会における自己の役割が如何なるものかを深く認識し

高い倫理性をもって行動できる生徒を育成する

そのため すべての教育活動の中心に生徒の育成を据え 生徒一人一人が主体的に  
学びに取り組む特色・魅力ある教育を意図的・計画的に行う

## (2) スクール・ポリシー

## ▶ グラデュエーション・ポリシー

- 志を高くし、目標に向かって切磋琢磨する力を育成します。
- 礼節を重んじ、自分の行動を律する力を育成します。
- 困難を乗り越え、変化の激しい時代を生き抜く力を育成します。

普通科:自ら学び自らを高めるための自学力、主体的に考えて動くための考動力、目標達成のためお互いに協力して課題に取り組む協働力を育成します。

工業科:ものづくりをとおして専門的な技術と課題解決能力を育て、環境問題や安全意識の高揚を図り望ましい職業観や勤労観を育成します。

## ▶ カリキュラム・ポリシー

普通科:特別進学コース、スポーツ進学コース、総合コース、公務員コースを設置し、探究学習や地域学習を行います。併せてICTを活用した教育活動を展開します。

工業科:情報コース、電気コース、機械コース、建設コースを設置し、伝統とテクノロジーを融合させた学習を地域企業と連携して行います。併せて系列大学と連携した取り組みを展開します。

## ▶ アドミッション・ポリシー

- 学習や部活動に意欲的に取り組む生徒を求めます。
- 科学の進歩に興味を持ち新たな知識の発見と技術の開発を目指す生徒を求めます。
- 地域産業の担い手を目指す生徒を求めます。

## (3) 中期目標・アクションプラン

- ① 現行の学習指導要領に基づく「主体的・対話的で深い学び」の実践と推進
  - ア. 次期学習指導要領の方向性を踏まえ、特色ある学校から魅力ある学校への進化
  - イ. 生徒が主役の授業展開(学んで楽しい、学んで嬉しい、学びが役立つ授業)
  - ウ. 一斉授業の充実と個に応じた指導の展開
  - エ. 進路実現のための指導強化
  - オ. 八戸工業大学との高大連携学習の推進
  - カ. 学校設定科目の設置と指導内容充実
  - キ. 資格取得や上級資格獲得のための指導と経済的支援
  - ク. 学習の理解を促進するための ICT を活用した学習基盤の整備
  
- ② 部活動を通じた人間教育の推進
  - ア. 強化指定部の設置と指導体制・支援体制の強化
  - イ. 時代に即した部活動の再編
  - ウ. 地域の人々の協力や学校教育施設以外との連携を重視した運営
  - エ. 地域貢献やボランティア活動を視野に入れた部活動運営
  
- ③ ブランディング戦略の推進
  - ア. 広報公聴担当部署の設置
  - イ. 全身で感じる、体験入学、部活動見学会、中学校説明会、教員対象入学者選抜説明会の充実
  - ウ. 視覚で感じる、学校紹介映像、ホームページや SNS、学校案内づくり
  - エ. 入試改革の推進
  - オ. 八戸工業大学グループであることの明示と内部進学特待生制度の周知徹底
  
- ④ 地域の未来を創造する力の推進
  - ア. 建学の精神のもと、社会の負託と時代の要請に応える文武両道体制づくり
  - イ. 自ら学び自ら考え行動できる生徒を目指した学校行事づくり
  - ウ. 持続可能な地域社会の発展に寄与、チャレンジする学校づくり
  
- ⑤ 教職員の教育力の向上と働き方改革の推進
  - ア. 外部研修への参加と校内フィードバックによる指導力の向上
  - イ. 校務のDX化とスクラップ&ビルド
  - ウ. 誇りと使命感を共有し、全職員による学校経営への参画
  - エ. 多様な生徒への対応の向上

## 3. 八戸工業大学第二高等学校・八戸工業大学第二高等学校附属中学校

## (1) スクール・ミッション

建学の精神のもと

物の道理をよく見極め

広く知識を求め

社会における自己の役割が如何なるものかを深く認識し

高い倫理性をもって行動できる生徒を育成する

そのため すべての教育活動の中心に生徒の育成を据え 生徒一人一人が主体的に  
学びに取り組む特色・魅力ある教育を意図的・計画的に行う

## (2) スクール・ポリシー

## ➤ グラデュエーション・ポリシー

## 【全日制】

- 新しい世界に踏み出し、自ら学び続ける生徒を育てます。
- よりよい社会の創造のために、豊かな人間性を持つ生徒を育てます。
- 自他の価値を認め合い、多様な人々と共に行動することができる生徒を育てます。

## 【通信制】

- 二高通信制での活動を、自分の自信につなげ、未来に向き合おうとする生徒を育てます。
- 未来を思い描き、その実現に向けて、学びに取り組み、経験を積み重ねる生徒を育てます。
- 自分を理解し、自分の言葉と行動により、まわりとの関係を築こうとする生徒を育てます。
- 多様な考えがあることを認め、まわりを大切に、共に行動しようとする生徒を育てます。

## ➤ カリキュラム・ポリシー

## 【全日制】

- コースの特色を活かして、生徒の興味・関心を引き起こすキャリア教育を行います。
- 総合的な探究の時間を主軸に、様々な社会課題の解決に向けた探究活動に取り組みます。
- NIKOプログラム(国際交流、ボランティア活動、体験学習、SDGsの達成に向けた取り組み)、生徒会活動、部活動への参加を推奨します。
- 中学校・高等学校・大学(中等・高等教育システム)を有する本学校法人をはじめ、地域社会と連携した取り組みを推進します。

## 【通信制】

- 未来の姿を思い描けるように、進路についての適性や理解を深めるためのキャリア教育を行います。
- 「基礎的な学び」「進路に応じた学び」「興味関心が持てる学び」に対応できる教育課程を準備します。
- 丁寧な面接指導・添削指導を行い、単位修得や卒業への意欲を持ち続けることができる教育を行います。
- コミュニケーション力の育成や集団活動については、一人一人が無理のない範囲で体験できる校外学習などの機会を準備し、「自分を表現する、他者を理解する、他者と行動する」ことを促します。

## ➤ アドミッション・ポリシー

## 【全日制】

- 自分の夢や希望に向けて、意欲をもって学校生活に取り組む生徒を求めます。
- 本校の教育内容やコースの特色について理解し、入学後も自ら進んで様々な学習活動に励み、自己の成長を目指す生徒を求めます。
- 謙虚に学ぶ心と他者への思いやりをもった生徒を求めます。

## 【通信制】

- 未来を向き、学習や生活の課題に取り組むために、通信制での学びを志す生徒
- 通信制の学習のしくみをよく理解し、学びに対して自ら積極的に取り組む生徒
- 学びの場において、ルールを守り、まわりの人を尊重することができる生徒
- 安心、安全をこころがけ、自立への学びと体験を積み重ねることをめざす生徒

## (3) 中期目標・アクションプラン

## 【高等学校】

- ① 教育目標達成を目指した教育力向上
  - ア. 多様な生徒たちの主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善
- ② カリキュラムマネジメントの実施
  - ア. 次期学習指導要領に向けた情報収集・準備
  - イ. 教育目標の実現に必要な教育内容の検討
  - ウ. 卒業と卒業後を見据えた教育課程の編成(通信制)
- ③ 学校満足度の向上
  - ア. 生徒ひとりひとりの自分の居場所と出番をつくる
  - イ. 強化部だけではなく部活動・愛好会の活性化
  - ウ. 費用対効果を保護者へ発信できるような体制づくり
  - エ. 一人ひとりに寄り添う学びの仕組みづくり(通信制)
- ④ デジタル戦略への転換
  - ア. 高校・附属中学校のホームページを統合しリニューアルを図る
  - イ. LINE、Instagram の活用とホームページとの連携

- ウ. 在校生による二高の魅力発信
  - エ. 学校の魅力を生徒の成長ストーリーやプロセスでわかりやすく生徒保護者へ伝える
  - オ. よりよい教育環境づくりのための施設整備計画・ICTシステムの導入(通信制)
- ⑤ 選ばれる学校、通わせたい学校へ
- ア. 手厚い教育から「真の手厚い教育」への継続的模索
  - イ. 自分は何に向いているのかを見つけられる学校へ
  - ウ. 進路実績だけではないプラスαの成長
  - エ. 先進校からの学びを二高にあわせて変革していく迅速な学校改革
  - オ. 安心・安全・自立に立脚する「学びのセーフティーネット」づくりの推進(通信制)
- ⑥ 主体的な進路選択と社会的自立を実現する進路支援体制の強化
- ア. 早期・段階的な進路意識形成の充実
  - イ. 多様な進路に対応できる個別最適な支援体制の充実
  - ウ. 校内研修・校外研修による進路指導力向上
  - エ. 探究活動と進路指導の接続強化
  - オ. 情報活用・進路支援環境の整備
  - カ. 八戸工業大学との高大連携・内部進学への推進
- ⑦ スクールバス運行の安全と利便性向上
- ア. 法人およびバス会社との連携強化とスクールバスの安全な運行
  - イ. 運行ルートの効率化、長距離移動地区の乗車時間短縮など、生徒の利便性向上
- ⑧ 生徒支援の充実
- ア. 奨学金制度の充実
  - イ. 不登校傾向にある生徒や特性を持っている生徒、悩みを抱えている生徒への支援
- ⑨ 学内外の諸関係機関との連携構築・維持・新規展開
- ア. 青森県ユネスコスクール連絡協議会としての活動充実
  - イ. 「地域ESD活動推進拠点」としての活動充実
  - ウ. 地域社会への貢献とステークホルダーづくり
  - エ. SDGs達成へ向けた取り組みの充実
  - オ. 外部人財との連携(コーディネーター等)
  - カ. 他校との連携
- ⑩ 総合的な探究・学外学習・ユネスコ・ESD・ボランティア系統的連携
- ア. 基本路線を確定(国際・地域・科学・文化など)し実施内容の把握、分類
  - イ. 内容の精査
  - ウ. 成果物の発表を目指して(外部への発信、外部からの評価)
  - エ. 所轄部署間の連携と情報共有
  - オ. 指導準備、事務処理、対外折衝に関わる時間のコマ組み化

## 【附属中学校】

- ① 特色ある教育活動の推進
  - ア. 進路意識を高める各種研修の工夫
  - イ. 個人差及び先取り学習に対応した学習計画・学習形態、学習機会の工夫
  - ウ. 一貫コース中高の交流会、学習合宿、合同考査学習会、研修会等の実施
  - エ. 豊かな経験をはぐくむ学校外活動への積極的な参加
- ② 生徒指導
  - ア. 「校風」(礼儀・礼節)を日々意識した実践と規範意識や愛校心の醸成
  - イ. 生徒理解を基盤とした学級・学年経営と教育相談・学習相談の定期的な実施
  - ウ. 生徒の自主性や計画性を育成する行事や特別活動の推進
- ③ PRの手立てを工夫する生徒募集活動
  - ア. 科学的な講座や受検学習会、各種部活動の体験教室等を通して、本校の特色や魅力にふれる募集活動の展開
  - イ. 生徒の活躍(実績)や学業奨学生制度を前面に出す広報活動の強化
  - ウ. 本校の特色ある教育への理解を深めるための教育活動見学会や体験会等の実施
- ④ 進路指導
  - ア. 高校と連携した活動の実施

## 4. さくら幼稚園

## (1) 教育目的

特色ある教育をもって幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために  
適切な環境を与えて、その心身の発達の助長をする

## (2) 教育目標

- ▶ 「丈夫な子ども」  
健康で安全な生活をするために必要な態度や習慣を身につける
- ▶ 「心豊かな子ども」  
人々と親しみ支え合って生活することができるようになるために、身近な人々に愛情を注ぐことや信頼するという経験を通して、自主・自立と共同の態度及び道徳性の芽を育てる
- ▶ 「意欲のある子ども」  
身近な自然現象や言葉・数量などへの興味・関心を育て、様々な活動に意欲的に参加し、集中して取り組む

## (3) 長期ビジョン

- ▶ 「従来から大切にしてきた基盤となる教育の継続とさらなる推進」  
(基盤となる教育・・・就学前に身に付けたい生活習慣・態度・知識)
- ▶ 「保護者のニーズに合わせた保育(預かり)の拡充」

## (4) 中期目標・アクションプラン

- ① 一人一人に合った指導と援助、保護者や関係機関、地域と連携した教育活動の充実
  - ア. 健康で安全、自立的な生活を送るための基本的な生活習慣の定着指導
  - イ. 子どもが自発的、創造的に動ける「遊びの活動」の充実
  - ウ. 絵本や紙芝居などを活用した豊かな心を育む情操教育の推進
  - エ. 時代のニーズに合わせた魅力ある教育活動の開発
  - オ. 特別な支援を要する子の特性理解と指導内容・方法の検討、全職員の共通理解徹底
  - カ. インクルーシブ教育のあり方を踏まえた適切な環境づくり(保護者・関係機関等との連携)
- ② 園の特色や魅力、教育内容の発信(より保護者に選ばれる園を目指して)
  - ア. 未就園児教室の内容や広報方法の検討、周知
  - イ. ホームページの充実、情報発信方法の検討と認知向上
  - ウ. 保護者との連携促進、家庭教育の重要性を普及・啓発する取組みの企画  
(園だより、保護者会、保護者向け研修会等)
  - エ. 子育ての悩み解決等を支援する「子育て相談室」の開室
- ③ 安心で安全な教育環境の整備
  - ア. 安全な教育環境のための管理徹底
  - イ. リスク管理マニュアルの整備と、全職員の共通理解徹底
  - ウ. 遊具の安全点検実施、遊び方のルール順守徹底

### Ⅲ. 法人全体の取組み

#### 【基本方針】

本法人の財務状況は、借入金を有していないことや一定規模の運用資産を保有していることから、健全性を維持している状態にあるが、地域の少子化の影響を大きく受け、「学生・生徒・園児数の減少に伴う教育活動収支の悪化」という構造的課題が顕在化している。

本中期計画「Ⅱ. 設置する学校のミッション・ビジョン・中期計画」で掲げる各設置校の入学者数回復に向けた取組みはもとより、法人グループ全体での学生・生徒・園児数確保に向けた取組み、人的・物的資本(教育的資本)の効率的活用を軸とした経営改善、さらには資産運用や外部資金獲得による収入源の多様化が不可欠である。これらの施策を総合的に進めることで、根本的な収支構造の再構築を図る。

#### (1) 中期目標・アクションプラン

- ① 安定的、持続的運営に資する財務基盤の構築
  - ア. 法人全体での学生・生徒・園児数確保に向けた取組みの実施
  - イ. 計画性のある予算執行・支出予算管理の実現と運用
  - ウ. 補助金等、積極的な外部資金の獲得
  - エ. 広報活動を含めた寄付募集活動の強化
  - オ. 資産運用方針に基づく安定的・恒久的な資産運用の実施
  - カ. 人件費管理の徹底
- ② 機能性・効率性向上を目指した組織運営とガバナンス体制の構築
  - ア. 教学計画に基づく中期的な視野による教員採用・適正配置
  - イ. 職員組織体制の見直し
  - ウ. 教職員研修、人材育成・評価制度等の人事施策による人材の育成
  - エ. 業務内容及びフローの見直しと AI 活用・DX 化の推進
- ③ 教育力・研究力向上を目指した環境整備
  - ア. 教育力向上のための教育設備の高度化
  - イ. 老朽化対応を含めた校舎等の計画的な施設整備の検討・実施
- ④ 地域の学園としてのブランド価値向上と広報強化
  - ア. 設置校間の連携を推進する取組みの実施
  - イ. 産官学連携による活動の継続と拡充
  - ウ. 各設置校における広報戦略の見直し及び新たな広報戦略の構築と継続的な実施

## (2) 財務計画

## 事業活動収支計算書

(単位：百万円)

項 目		令和6年度 決算額	令和7年度 決算見込額	令和8年度 予算額	令和9年度 試算額	令和10年度 試算額	令和11年度 試算額	令和12年度 試算額	
教育活動 収入	学生生徒等納付金	1,798	1,716	1,677	1,691	1,796	1,914	2,010	
	手数料	32	31	31	31	31	31	31	
	寄付金	53	55	50	54	55	55	55	
	經常費等補助金	809	858	840	855	866	877	886	
	付随事業収入	47	46	39	55	55	55	55	
	雑収入	175	148	87	166	166	166	166	
	教育活動収入計	2,914	2,854	2,724	2,852	2,969	3,098	3,203	
	事業活動 支出の部	人件費	1,974	1,907	1,857	1,860	1,860	1,860	1,860
		教育研究経費	1,110	1,196	1,164	1,160	1,155	1,150	1,145
		管理経費	259	269	262	257	254	251	250
徴収不能額等		5	5	5	5	5	5	5	
教育活動支出計		3,348	3,377	3,288	3,282	3,274	3,266	3,260	
教育活動収支差額		△ 434	△ 523	△ 564	△ 430	△ 305	△ 168	△ 57	
教育活動 外	動事業 収入活	受取利息・配当金	41	51	58	60	60	60	60
	教育活動外収入計	41	51	58	60	60	60	60	
	動事業 支出活	借入金等利息	0	0	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0	0	0	0	0	
教育活動外収支差額		41	51	58	60	60	60	60	
經常収支差額		△ 393	△ 472	△ 506	△ 370	△ 245	△ 108	3	
特別 収支	収入の 活動部	資産売却差額	43	0	4	0	0	0	0
		その他の特別収入	11	11	243	11	11	11	11
		特別収入計	54	11	247	11	11	11	11
	支出の 活動部	資産処分差額	40	171	3	47	47	47	47
		その他の特別支出		84	0	0	0	0	0
		特別支出計	40	255	3	47	47	47	47
特別収支差額		14	△ 244	244	△ 36	△ 36	△ 36	△ 36	
基本金組入前当年度収支差額		△ 379	△ 716	△ 262	△ 406	△ 281	△ 144	△ 33	